バドミントン競技の誕生と近代化に貢献した５人の人物の研究
－オフィシャルルール誕生前後の草創期において－

A Study of Five Persons who Contributed to the Birth and Modernisation of Badminton: The Early Days and the Establishment of the Official Rules in 1893

蘭　和真※
Kazuma Araragi※

Abstract

The purpose of this study was to clarify the achievements of those who have contributed to the birth and modernisation of badminton. For this purpose, we examined articles from The Badminton Gazette, which was first published as the official magazine of The Badminton Association in 1907, and The Lawn Tennis, which was the official magazine of The Lawn Tennis Association, which handled information on the Badminton Association before the launch of this magazine. As a result of the investigation, in this research, we decided to discuss five persons, Colonel H. O. Selby, Mr. J. H. E. Hart, Colonel S. S. C. Dolby, Mr. S. M. Massey, and Sir G. A. Thomas Bart.

It was Colonel Selby who first appears in the magazine as someone who played a role in the evolution of badminton into the modern sport. His greatest contribution was the documentation of the rules. Early badminton had no written rules and was played empirically. However, the game could not be fully enjoyed in this state. Therefore, the rules were documented and published by Colonel Selby. The year of publication is 1873. These rules were a prototype of the rules that were later enacted as the Association Rules in 1893.

Mr. Hart was involved in the revision of the Selby Rules. He was involved in tennis and badminton in India. Mr. Hart first encountered badminton in 1874 in Karachi, India. Then, when unifying the rules with the badminton association, these rules were used as the basis. He also helped improve shuttlecocks and hitting tools. In addition, after his return to England, he played a major role in revising the rules and holding the All-England Championships.

Colonel Dolby was the first president of the Badminton Association. In the 1890s, various badminton clubs were established in England, and there was a growing trend to hold competitions between clubs, but there were no unified rules. In August 1893, Colonel Dolby sent an invitation to the secretaries of all known badminton clubs to hold a meeting to decide on the rules, in order to form an association to decide on the uniform rules. Then, on 12 September 1893, the association was established, and the unified rules were enacted by the committee within it.

Mr. Massey was the inaugural men's doubles champion of the All-England Championships, which began in 1899. Along with this, Mr. Massey's contribution to badminton is probably the role he played in the modernisation of badminton. In 1911, he wrote a 144-page book entitled "Badminton." Prior to the publication of this book, Mr. Massey also wrote an article on Badminton for the Badminton Association's magazine. In this article, badminton is described as a scientific game, and its techniques and tactics are described.

Sir Thomas Bart contributed to the modernisation of badminton as a player and as an official

※日本経済大学経済学部健康スポーツ経営学科

of the Association. He won 21 the All-England Championships in singles, doubles, and mixed doubles. He also served as the chief editor of the second issue of the Badminton Association's magazine, which was launched in 1907, and devoted himself to the popularisation of badminton. He also became the first president of the International Badminton Association, founded in 1934. From such achievements, in 1949, an international competition to determine the world's number one men's team began in 1949, and this competition, the Thomas Cup, was established, bearing his name.
Keywords: badminton, history, person, modern sport

１．はじめに

Adams B.（1980）によると、バドミントン競技の起源は英国に古くから伝わるバトルドーアンドシャトルコックである。これが19世紀半ば頃、イギリスのボーフォート公爵のカントリーハウスであるバドミントンハウスで第８代公爵の子どもたちによって遊ばれている中で、単なる遊びから競い合う遊びに進化していった。最初は何回続くかを競う遊びであったが、いつの間にかどちらが失敗するかを競うゲームに変化していった。その中で、ネットやコート、得点法といったルールが考案されていった。そして、このようなルール作りは当時のイギリス領インド帝国で盛んに行われた。しかし、このときのルールはいわゆるローカルルールで、プレーされている土地固有のルールであった。蘭和真・蘭朝子（1997）は1870年代に出版された書物を取り上げそのルールを具体的に明らかにしている。Buchanan J.（1876）、Cavendish（1876）、Marshall J.（1878）などが著した書物に出てくるルールはその代表的なものである。1870年代～ 80年代にかけては多くのローカルルールの下、初期の頃はインド駐留イギリス人が中心となってこのゲームを進化させた。その後、インドからイギリスに帰国した人々によってイギリス国内でもこのゲームは盛んになった。1890年代に入るとイギリス国内で増えてきたクラブ間での対抗戦のためにルールを統一する必要が生じた。そこで、1893年に、The Badminton Associationが設立されルールが統一された。さらに、このゲームは進化を続け、1899年には権威ある大会として第１回全英選手権が開催され現在に至っている。また、1907年には、1893年に設立されたバドミントン協会の機関誌として、The Badminton Gazetteが創刊されバドミントンに関わる各種の情報がイギリス国内のみならず国外にも伝わるようになった。そして、全英選手権の開催とも相まって、バドミントンが国際的な近代スポーツとしての地位を確立していくこととなった。

そこで、本研究ではバドミントンが誕生し、近代スポーツとして発展する中でそれに貢献したと考えられる５名の人物を取り上げた。そして、The Badminton Gazette誌ならびに本誌創刊の前にバドミントン協会の情報を取り扱ったThe Lawn Tennis Associationの機関誌であったThe Lawn Tennis誌の記事からその貢献の内容を明らかにすることを目的とした。

２．バドミントンの誕生とその後の発展に貢献した５名の人物

2-1. セルビー大佐

バドミントンが近代スポーツに進化するために関わりを持った人物として文献に最初に登場するのは、筆者の知る限り、Licut. H. O. Selby（後にColonel）（以下「セルビー大佐」と略す）である（図１参照）。セルビー中尉（後に大佐）の最も大きな貢献はルールの文書化であろう。The Lawn Tennis Association（1899）は12月６日発行の「The Early History of the Game」という記事で、最初の頃のバドミントンでは文書化されたルールがなく、経験にもとづいてプレーされていたと記している。特に、コートの形状や寸法はプレーされる場所により様々であった。また、テニスのルールを改良して使っていたため、前衛に立ったサーバーがオーバーハンドでサーブすることが認められていたことから、サービングサイドが有利になっていたとある。まだまだルールが成熟していなかったので、十分に楽しめるゲームではなかったことが推測される。しかし、バドミントンゲームはインドのプーナにあった競技場で急速に進化していった。特に、綿密に起草されたルールブックが初めて導入されたという。この歴史的なルールブックの作者こそが、上述のセルビー大佐であり、発表された年は1873年である。このルールこそが、その後、1893年にアソシエーションルールとして制定されたルールの原型であるとこの記事では主張している。現在のルールの出発点がこの1893年に制定されたアソシエーションルールであることは間違いないところであるので、セルビー大佐が作成したこのセルビールール（この文献ではこのように記述されている）が現在のルールのルーツであると断定してよかろう。ちなみに、このルールブックのタイトルページには、巧妙だが優しいユーモアをもって、「法と根拠ですよ、ご婦人方」というシェークスピアの一節が示されていたという。プーナの婦人たちがルールについて論争することに夢中になっていたのか、それとも違う何かがあったのかはわからないがこの引用は愉快なものであったと記述されている。1873年頃、バドミントンが進化し楽しいゲームに変化してきたものの文書化されたルールがなかったためゲームを進める中でこのような状況が生まれていたことが想像される。そこにセルビー大佐が十分に練られたルールブックを提供したということで、セルビー大佐がバドミントン誕生に果たした役割は大きいであろう。図１にセルビー大佐の写真を示したが、写真の裏にはセルビー大佐はエンジニアであったと手書きで書かれている。したがって、このような作業が得意であったのかもしれない。その後、このルールはMr. J. H. E. Hartによって1876年に改訂され再発行されている。さらにこのルールは再びハート氏によって改訂され、バスバドミントンクラブによって1889年に出版されたという。他方、セルビー大佐は1875年のクリスマスにボンベイに於いて「THE THEORY OF BADMINTON」という印刷物を発行している。この印刷物については、The Lawn Tennis Association（1900）が４月４日発行の記事で全文を紹介してい

図１　セルビー大佐

出典　Indian Office Library 所蔵写真

る。この印刷物は一言で言えばバドミントンの戦術について合理性を持って解説したものである。まずは人間の動きに関して５つの一般性をあげて、その後、これらを前提として６つの原則となる戦術をあげている。そして、最後にゲームにおける具体例を挙げてまとめとしている。この記事については、The Lawn Tennis Association（1900）が３月７日発行の記事で掲載を予告しているが、そのきっかけとなったことがある。それはバドミントン誕生に大きな貢献をしたセルビー大佐が1900年１月２日に亡くなったことである。鉄道技師でもあった故人が書いたこの印刷物の科学性や合理性を称え、その後のバドミントンに大きな影響を与えたことが紹介されている。これらのことからもセルビー大佐のバドミントン誕生に関わる貢献度の大きさが推測される。

2-2. ハート氏

Mr. J. H. E. Hart（以下「ハート氏」と略す）（図２参照）についてはバドミントンの誕生に少なからず貢献があったと推測されるが、テニスとバドミントンの両方で尊敬すべき名前であったとThe Lawn Tennis Association（1899）が12月６日発行の「The Early History of the Game」という記事の中で紹介している。同時に、上述のとおり、セルビールールの改定にも関わっている。The Badminton Association（1909）は「Mr. J. H. E. Hart」という記事でもハート氏のことを大きく取り上げているこの記事は、雑誌の編集者の求めに応じてハート氏がバドミントン誕生について回顧し、それを編集した記事である。これによると、このゲームがインドにもたらされたのは、1870年代の早い時期だったようである。ハート氏が初めてバドミントンに出会ったのは、1874年のことで、場所はインドのカラチであったという。その当時、カラチの競技場ではデカン地方のサタラのオリジナルルールを入手しプレーしていた。コートについてもサタラ独自のものを使っていたが、そのときは長方形ではなく奇妙な形であった。これは、どうも、インドの気候と関係があったようである。すなわち、インドの気候は、特に昼間の太陽光線はとても耐えがたいもので、屋外でゲームをやることは気力を失うものであったという。また、夜は暗く長いところから、バドミントンは人工的な照明を使って屋内で行われるようになったのである。しかし、これがとても快適でバドミントンが発展する背景となったようである。ただし、室内で行う場合には問題もあったとのことで、一般的に建物は陸軍のバラックが使われたが、その建物の両側には入り口がありその影響からコートがくびれた形になったとのことである。このような記述から、バドミントンの誕生の初期の頃にハート氏がこのゲームに多く関わり、その進化に貢献したことが推測される。また、ハート氏がシャトルコックや打具の改良にも関わったことが記述されている。用具の改良が近代スポーツとしてのバドミントンの誕生に繋がったことは疑う余地はなかろう。本記事の最後に編集者は、ハート氏がバドミン

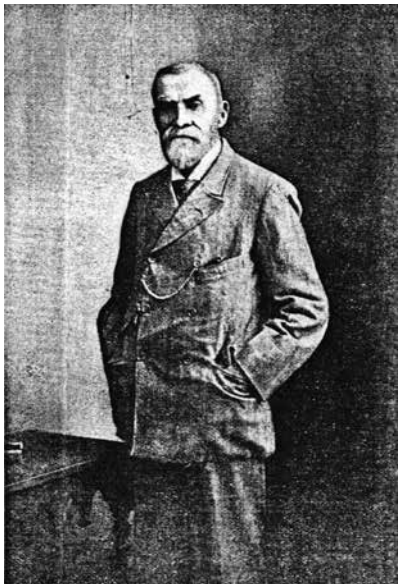


図２　ハート氏

出典　The Badminton Gazette（1914），Nov. p.23.

トンに与えた影響は大きく、インドと英国両方でその役割を果たしたと述べている。英国に戻ったあとはクリスタルバドミントンクラブに所属し、バドミントンアソシエーションのルールの改定や全英選手権の開催にも大きな役割を果たしたとある。さらに、The Badminton Association（1914）が「The Late Mr. J. H. E. Hart」という記事でもハート氏のことを大きく取り上げている。これはハート氏の死去に当たりそれを惜しむ記事であった。これによると彼が亡くなったのは、1914年10月14日であった。ハート氏が1874年以来、バドミントンの発展に関わったのは上述の通りであるが、1887年にインドから英国に帰国している。帰国後は多くの優秀なプレーヤーの誕生に貢献した。さらに、1899年から始まった全英選手権には大会役員としてハードな仕事を継続してこなしてきたという。最後に、彼がバドミントン界に与えた貢献の大きさを称えながら死を悼んで結んでいる。上述の記事からもハート氏がバドミントンの誕生と発展に大きな影響を与えたことは間違いなかろう。

2-3. ドルビー大佐

Colonel S. S. C. Dolby（以下「ドルビー大佐」と略す）（図３参照）は1893年に世界で初めて設立されたバドミントン協会であるThe Badminton associationの初代会長である。The Badminton Association（1909）はThe Founder of the Badminton associationという記事で詳しく取り上げている。この記事によると、ドルビー大佐が最初にバドミントンをプレーしたのは1875年のことであったという。 そのとき、イングランドには軍人のクラブがあり、フォークストンにあったウエストクリフホテルの舞踏室でプレーしていたが、ゲームは二の次で、一番は「紅茶とシャトル」であったという。つまり、社交の場でバドミントンを行っていたということであろう。1890年ドルビー大佐はサウスシークラブとユナイテッドサービスクラブに所属した。そして、1893年のバドミントン協会設立の際に中心的な働きをした。この設立についての理由がここでも述べられているが、当時はイングランドにおいて色々なバドミントンクラブが設立されてきた。そうなると、クラブ対抗戦を行おうという気運が高まった。しかしながら、各クラブによってルールが違うことがわかった。そこで、クラブ対抗戦を成立させるための統一ルールが必要になった。そのために、まずは協会を設立する必要があるということでドルビー大佐が行動を起こした。しかし、ルールを統一するという作業は難しかったようである。どのクラブも自分たちのルールがベストだと考えていたからである。そこを会長に推されたドルビー大佐が調整したものと推測される。このときの詳細については、The Lawn Tennis Association （1900）がIt's origin and aimという記事に記している。これによると、当時はルールがバラバラで色々なクラブが試合をできない状態であった。そこで、対抗戦を行うためにはルールを統一する必要があるということで、南イングランドと西イングランドの

図３　ドルビー大佐

出典　The Badminton Gazette（1909）, Dec. p.8.

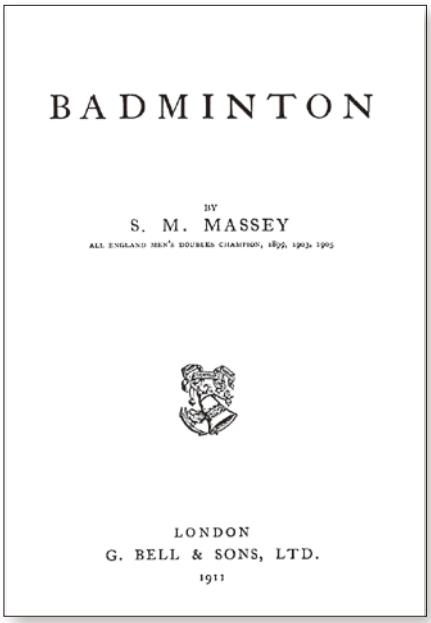
クラブが中心となってその動きが始まったが、あまりに色々で複雑なルールが存在したため統一するのはほとんど不可能な状態であった。そこでルールを統一するためにはフットボールがそうであったようにまずは協会を作ろうということになった。そして、その動きが具体化したのは1893年のことであった。その音頭を取ったのは、サウスハントクラブのバックレー氏とサウスシークラブのドルビー大佐であったが、ドルビー大佐が1893年８月に知りうる全てのバドミントンクラブの幹事に、ルールを決めるための協会を作る会議をサウスシーで開く旨をしたためた招待状を送った。そして、1893年９月12日に協会が設立され、その中の委員会で統一されたルール、すなわち、アソシエーションルールが制定されたということである。そして、ドルビー大佐は1898年まで会長を続けた。上述のことからも、このドルビー大佐がバドミントンの誕生に貢献したことは明らかであろう。

2-4. マッセイ氏

Mr. S. M. Massey（以下「マッセイ氏」と略す）（図４参照）は、1899年に始まった全英選手権の初代男子ダブルスのチャンピオンである。このときに、実施された種目は男女のダブルスとミックスダブルスの３種目であったので、まさに初代チャンピオンということができよう。さらに、1903年と1905年にも男子ダブルスのタイトルをそれぞれパートナーを変えて制している。これに併せて、マッセイ氏のバドミントンに対する貢献は、バドミントンの近代化に果たした役割であろう。1911年に、「Badminton」という書を著している。これについては図５にそのタイトルページと目次を示しているが、144頁にわたる大作である。内容もバドミントンの歴史から始まり、初心者へのヒント、という興味深い項目に続き、各種ストロークの解説、自分の得意なストロークの紹介、各種種目での戦術などについて解説したあとに、バドミントンの会場やコート、クラブ組織や協会組織についても紹介している。さらには、アイルランドやスコットランド、フランスのバドミントン事情、用具についても言及している。まだバドミントンが誕生したばかりの状態で、さらに、権威ある選手権である全英大会が始められて10年あまりの時期にこのような書物が出版されたことは賞賛に値しよう。また、マッセイ氏はこの書物の出版に先立ち、The Badminton Association （1907）の雑誌の中でBadmintonという記事を書いている。ここでは、バドミントンのことを、サイエンティフィックゲームと呼んでいる。そして、素早い目や腕の動き、微妙な手首の動きが要求される健康的なゲームであると紹介している。また、バドミントンは冬季に行われると紹介しているが、当時はテニスとバドミントンの両方をプレーする選手が多かったようで、夏はテニス、冬はバドミントンを楽しむというのが一般的なスタイルであったことが想像される。バドミントン協

図４　マッセイ氏

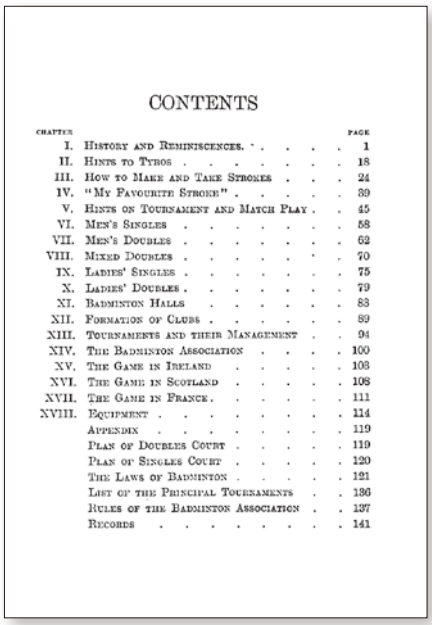
出典　The Badminton Story（1980）, p.33.



BADMINTON

BY
S. M. MASSEY
ALL ENGLAND MEN'S DOUBLES CHAMPION, 1899, 1903, 1905

LONDON
G. BELL & SONS, LTD.
1911



CONTENTS

CHAPTER		PAGE
I.	History and Reminiscences	1
II.	Hints to Tyros	18
III.	How to Make and Take Strokes	24
IV.	"My Favourite Stroke"	39
V.	Hints on Tournament and Match Play	45
VI.	Men's Singles	58
VII.	Men's Doubles	62
VIII.	Mixed Doubles	70
IX.	Ladies' Singles	75
X.	Ladies' Doubles	79
XI.	Badminton Halls	83
XII.	Formation of Clubs	89
XIII.	Tournaments and their Management	94
XIV.	The Badminton Association	100
XV.	The Game in Ireland	108
XVI.	The Game in Scotland	108
XVII.	The Game in France	111
XVIII.	Equipment	114
	Appendix	119
	Plan of Doubles Court	119
	Plan of Singles Court	120
	The Laws of Badminton	121
	List of the Principal Tournaments	136
	Rules of the Badminton Association	137
	Records	141

図５　BADMINTONのタイトルページおよび目次

出典　Massey M.（1911）, BELL & SONS, LTD.

会には10年前には20あまりのクラブしかなかったが、今では少なくとも220のクラブが加盟し、さらに、未加盟のクラブも200存在していることを指摘しバドミントンの急速な発展について言及している。他方、バドミントンは簡単そうに見えるので初心者がすぐに上手になれると考えるとあとでがっかりすることになると説明している。これは現在でもバドミントンのことを説明する際に使われることがあることを考えるとバドミントンの誕生当時と変わらないことが興味深いところである。マッセイ氏が述べるところでは、その当時、ダブルスが最も人気のあるゲームであったようである。もっとも、当時は３対３や４対４のゲームもあった中でダブルスが最も人気があったという記述は注目に値する。これに関して、蘭（2004）によると、競技規則から３対３と４対４のゲームについての項目が削除されたのが1907-1908年版からである。また、蘭（2021）は、1870年代におけるローカルルールなどでは４対４が一般的であったとし、インドなどで盛んに行われていた頃には社交としてのバドミントンが重要であり、多人数でのゲームが行われていたのではなかろうかと述べている。その考えが協会設立後のルールにも根強く残り、公式ゲームとして生き残ったのではなかろうか。これに関しては、機関誌が面白い回顧録を記している。これによると、初期の頃のバドミントンは、「ヒットアンドスクリーム」と呼ばれていたそうである。どのようなことかというと、女性たちが相手からシャトルが打たれる瞬間に叫んだためである。なぜ叫んだかということであるが、高速のシャトルがまさに彼女らに当たるかのように見えたからである。すなわち、３対３や４対４のゲームでは女性が前衛で男性が後衛に立つのが一般的であったようである。したがって、前衛にいる女性には恐怖であったようである。さらに、バドミントンが進化し高度な技術や戦術が考え出される中で３対３や４対４のゲームは非常に危険なものになっていったのであろう。そのようなことから正式なゲームからは排除

されたのあろう。このことは、マッセイ氏の記述からも読み取ることができ、この頃がまさにバドミントンの技術や戦術が一気に高度化した時期であることが考えられ、そのことに彼が大きく関わっていたことが推測される。

2-5. トーマス卿

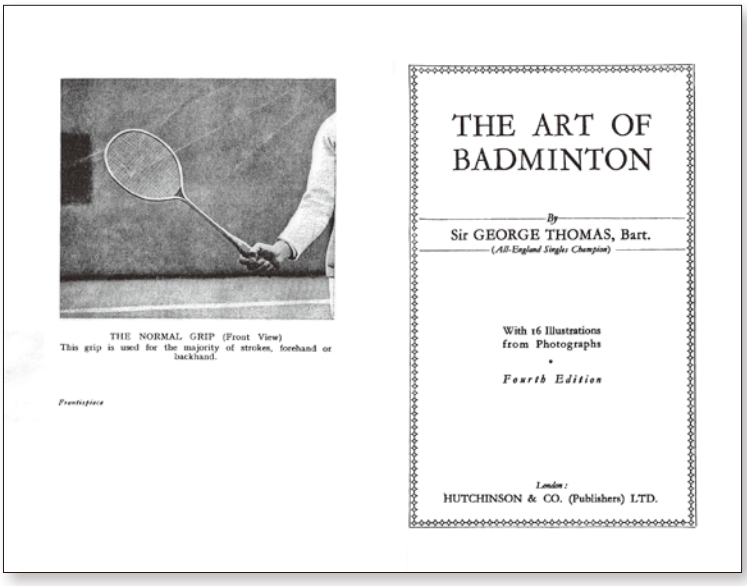
Sir G. A. Thomas Bart.（以下「トーマス卿」と略す）（図６参照）は全英選手権のチャンピオンであり、選手として、また、協会の役員としてバドミントンの近代化に貢献した人物である。The Badminton Association（1912）はMr. G. A. Thomasという記事でトーマス卿のバドミントンに対する功績を称えている。この記事によると、トーマス卿は1907年に創刊されたバドミントン協会の機関誌であるThe Badminton Gazetteの第２号から編集長を務めている。創刊号の表紙については図７に示したが、この当時、新しい雑誌を発行することはとても難しかったようで、彼の存在なしには発行を続けることはできなかったとある。その一方、トーマス卿は選手としても活躍したとある。彼がバドミントンをはじめたのは1889年の秋のことで、ハンプシャー州ポーツマスのサウスシーにあったユナイテッドサービスバドミントンクラブに所属したとある。彼の全英選手権出場は1901年の第３回大会からであった。その後、ミックスダブルスでは1903年に初優勝し、1906年、1907年、1911年、1914年、1920年、1921年、1922年と計８回の優勝を果たしている。また，男子ダブルスでも、1906年、1908年、1911年、1912年、1913年、1914年、1921年、1924年、1928年と９回優勝している。さらに，男子シングルスでも1920年～1923年の間に４連覇している。1923年の優勝は彼が41歳の時でこれは今でも最年長記録となっている。このような選手としての実績を元にトーマス卿は「THE ART OF BADMINTON」という156頁からなる書物も著している（図８参照）。これは1930年に発行されており、マッセイ氏の著書以来の本格的なバドミントンの技術書である。この著書が多くのバドミントン関係者に与えた影響も大きかったであろう。他方、The Badminton Association（1949）は、Sir George Thomas Badminton’s Greatest

図６　トーマス卿

出典　The Badminton Gazette（1912），Oct.p.9.

図７　バドミントンガゼット創刊号表紙

出典　The Badminton Gazette（1907），Nov.表紙


THE NORMAL GRIP (Front View)
This grip is used for the majority of strokes, forehand or backhand.

Frontispiece

THE ART OF BADMINTON

By

Sir GEORGE THOMAS, Bart.

(All-England Singles Champion)

With 16 Illustrations from Photographs

Fourth Edition

London:
HUTCHINSON & CO. (Publishers) LTD.

図８　THE ART OF BADMINTONのタイトルページ

出典　Thomas G., The ART OF BADMINTON（1930）, HUTCHINSON & CO, LTD

Personalityという記事でも彼の功績について大きく取り扱っている。それによると、彼が生まれたのは1881年６月14日のことで、生まれた場所はトルコのイスタンブールに近いセラピアという町であった。そして、1899年の秋にハンプシャー州のサウスシーにあったユナイテッドサービスバドミントンクラブでバドミントンを始めた。彼の選手としての活躍は全英選手権だけにとどまらず、イングランド代表としても国際的に活躍した。また、バドミントン協会に対する貢献も大きく、副会長をはじめ数々の役職を歴任した。1918年に父の死を受けて第７代ヤプトン準男爵の爵位を継承したが、1934年に設立されたInternational Badminton Association（現、Badminton World Federation）の初代会長にも就任した。そのような功績から、1949年には、彼の名前を冠したトーマスカップ（図９参照）を争奪する、男子バドミントンの世界一を決める国別対抗戦が始まり現在に至っている。このようなことから、彼がバドミントンを世界的な近代スポーツへと導いた功績は賞賛に値しよう。ちなみに、本記事によるとトーマス卿はテニスでもその実力を発揮し、ウインブルドン選手権では、1911年にシングルスでベスト８、1907年と1912年にはダブルスでベスト４に入賞したとある。

図９　トーマス卿とトーマスカップ

出典　The Badminton Gazette（1949）, Feb. p.109.

3. まとめ

本研究ではバドミントンが誕生し、近代スポーツとして発展する中でそれに貢献したと考えられる５名の人物を取り上げた。そして、The Badminton Gazette誌ならびに本誌創刊の前にバドミントン協会の情報を取り扱ったThe Lawn Tennis Associationの機関誌であったLawn Tennis誌の記事からその貢献の内容を明らかにした。

本研究で取り上げた５名に人物は、Colonel H. O. Selby（セルビー大佐）、Mr. J. H. E. Hart（ハート氏）、Colonel S. S. C. Dolby（ドルビー大佐）、Mr. S. M. Massey（マッセイ氏）、Sir G. A. Thomas Bart.（トーマス卿）であった。

バドミントンが近代スポーツに進化に関わった人物として文献に最初に登場するのはセルビー大佐であった。彼の最も大きな貢献はルールの文書化であった。初期のバドミントンには文書化されたルールがなく、経験にもとずいてプレーされていた。しかし、この状態ではゲームを十分に楽しむことができない。そこで、セルビー大佐が文書化し出版した。発表された年は1873年である。このルールこそが、その後、1893年にアソシエーションルールと制定されたルールの原型である。

ハート氏はセルビールールの改定に関わった人物である。インドでテニスとバドミントンに関わっていた。ハート氏が初めてバドミントンに出会ったのは、1874年のことで、場所はインドのカラチであったが、セルビー大佐が文書化したルールをインド国内のみならずイギリスにも広め改良した。そして、バドミントン協会でルールを統一する際にその基本とした。また、シャトルコックや打具の改良にも関わった。さらに、イギリスへの帰国後はルールの改定や全英選手権の開催にも大きな役割を果たした。

ドルビー大佐は世界で初めて設立されたバドミントン協会の初代会長である。1890年代に入ってイギリス国内には色々なバドミントンクラブが設立され、クラブ対抗戦を行おうという気運が高まったが統一ルールがなかった。そこで、統一ルールを決めるための協会を作るためにドルビー大佐が1893年８月に知りうる全てのバドミントンクラブの幹事にルールを決めるための会議を開く旨をしたためた招待状を送った。そして、1893年９月12日に協会が設立され、その中の委員会で統一ルールが制定された。

マッセイ氏は1899年に始まった全英選手権の初代男子ダブルスのチャンピオンである。これに併せて、マッセイ氏のバドミントンに対する貢献は、バドミントンの近代化に果たした役割であろう。1911年に144頁にわたる「Badminton」という書を著している。また、マッセイ氏はこの書物の出版先立ち、バドミントン協会の機関誌でBadmintonという記事を書いている。ここでは、バドミントンのことを、サイエンティフィックゲームと呼んで技術や戦術について記している。

トーマス卿は選手として、また、協会の役員としてバドミントンの近代化に貢献した人物である。全英選手権ではシングルス、ダブルス、ミックスダブルスを併せて21回の優勝を果たしている。また、1907年に創刊されたバドミントン協会の機関誌の第２号から編集長を務めバドミントン普及に力を尽くした。さらに、1934年に設立されたInternational Badminton Associationの初代会長にも就任した。そのような功績から、1949年には、彼の名前を冠したトーマスカップを争奪する、男子の世界１を決める国別対抗戦が始まった。

文献一覧

Adams B. (1980). The Badminton Story. BBC.
The Badminton Association (1909). Mr. J. H. E. Hart, The Badminton Gazette, Nov., pp. 6.
The Badminton Association (1909). The Founder of the Badminton Association, The Badminton Gazette, Dec., pp. 8.
The Badminton Association (1914). Late Mr. J. H. E. Hart, The Badminton Gazette, Nov., pp. 23.
The Badminton Association (1907). Badminton. The Badminton Gazette, Nov., pp. 9.
The Badminton Association (1912). Mr. G. A. Thomas. The Badminton Gazette, Oct., pp. 9-10.
The Badminton Association (1949). Sir George Thomas Badminton's Greatest Personality. The Badminton Gazette, Feb., pp. 107-109.
Thomas G. (1930). THE ART OF BADMINTON, HUTCHINSON & CO. LTD.
The Lawn Tennis Association (1899). The Early History of the Game, Lawn Tennis, Dec. 6, pp. 439.
The Lawn Tennis Association (1899). The Badminton, Lawn Tennis, Dec. 6, pp. 439.
The Lawn Tennis Association (1900). Lawn Tennis, Mar., 7. pp. 486.
The Lawn Tennis Association (1900). The Badminton Association, Lawn Tennis, Feb. 7, pp. 470.
Massey M. (1911). BADMINTON, BELL & SONS, LTD.
蘭和真・蘭朝子 (1997).「バドミントンの初期のルールに関する研究－1893年のバドミント会設立以前に考案されたルールの研究－, 東海女子大学紀要, 第15号, 15-36頁.
蘭和真(2004).「初期のオフィシャルバドミントンルールの研究－1898年～1912年のルールの変化－」, 東海女子大学紀要, 第24号, 15-31頁.
蘭和真(2021).「バドミントンが近代スポーツとして成立した1893年前後のゲームに関する研究」, 日本経大論集, 第50巻, 第2号, 29-52頁.